

## 「実物を観たくなっただ!」 というアナタへ

咲くやこの花館「食虫植物展」  
7月20日(水)~8月28日(日)

人気者の食虫植物を数十種類もご覧になれます。2階花回廊ではウツボカズラ類、モウセンゴケ類、サラセニア類、ミミカキグサ類など、高山植物室ではカリフォルニアのコブラリリー(写真)、ギアナ高地のヘリアンホラ類、プロキニア、オーストラリアのセファローツ、日本などのムシトリスミレ類などマニアの垂涎的ともなりそうです。多くの方々に楽しく観察して頂きたい、食虫植物の全てが分かる展示です。



### ハエトリグサ疑似捕虫実演

アテンダントが食虫植物についてご紹介します。ハエトリグサが葉を閉じる様子もご覧いただけます。※植物の状態により、うまくご覧いただけない場合もございます。期間中毎日 ①11:45~ ②13:45~ ③15:45~ 参加無料(別途入館料)予約不要。自由にご参加下さい。

### 食虫植物観察教室 8月7日(日)、8月21日(日)

毎年人気の観察教室では、食虫植物の詳しいお話を聞いて、実際に捕まえた虫を虫メガネなどで観察します。テキストをもとに説明しますので、お子さまの夏休みの体験にオススメ。観察に使った食虫植物はお持ち帰りいただけます。



時間: 13:30~15:00  
定員: 16組(親子での参加もOK)  
対象: 小学生~中学3年生  
材料費: 1,500円(別途入館料)  
受付: 8/7は7/7、8/21は7/21、10:00より電話で先着順



TEL:06-6912-0055

## もっと知りたい! 食虫植物Q&A

**Q** どんな条件のところに自生しているのですか?

**A** 土地が痩せていて、日当たりの良いところに多く自生しています。ちなみに熱帯雨林は土壌が肥えているイメージがありますが、有機質は高温で分解も早く、しかも雨で流れてしまうこともあり、養分は意外と少ないのが一般的です。熱帯雨林はやせ地で根が浅いため、板根(写真)で支えているものもあります。



**Q** 食虫植物と言えば熱帯雨林に多いイメージがありますが?

**A** 多くの方がそう思っているようですが、実際に熱帯雨林に自生しているのはウツボカズラの類だけです。食虫植物は熱帯から寒冷地にまで広く分布しており、生育する環境に合わせた様々な姿で捕虫しています。

**Q** どうしても虫を食べないと生きていけないのですか?

**A** 食虫植物も光合成を行います。そこで生きていく上で最低限のエネルギーは補給できますので、必ずしも虫を食べる必要はありません。やせ地に育つため栄養補強のため、もしくはオヤツと言えるかもしれません。

**Q** ハエトリグサは、口のような部分を何度でも開閉できるのですか?

**A** 口のような捕虫葉の内側にある、とげのような感覚毛の2か所以上に接触して、虫が入ったことをしっかり確認してから閉じます。口の開閉にエネルギーを要するので、雨などによる無駄な動きを抑えるためです。何度も繰り返していると黒ずんできて、枯れる原因になります。



この花、どれかワカルカナ!? (P3の解答)  
正解 A: ムシトリスミレ B: ハエトリグサ C: サラセニア  
クイズの花の紹介  
A ムシトリスミレ……6月頃にスミレのような花を咲かせます。分類上はタヌキモの仲間  
B ハエトリグサ……6月頃30cmほどの茎の先に花を咲かせます。  
C サラセニア……面白い形の花を夏に咲かせ、やがて種子がつかます。

## 食虫植物の「食卓」を訪ねて

「咲くやこの花館の名物館長が語る「食虫植物の世界紀行」」

食虫植物にもいろいろな種類がありますが、人気の上位はウツボカズラ(ネベンテス)とハエトリグサでしょう。ウツボカズラの捕虫袋は大きさは様々です。袋のふたの裏にある突起物に蜜を分泌するもの、地面に垂を点々と置いて獲物を待つもの、袋の長さが30センチ以上になるものまであります。この仲間にはボルネオを中心として熱帯アジア、オーストラリア北部、マダガスカルなどに約70種類が知られています。シンガポールのブキティマという自然保護区には、ウツボカズラが袋を床にたくさん置いたような景色をつくり出します。アンブラリア(写真左下)という種類で、袋の中身は主にアリです。マレーシアのジョホールバルという町に近い空き地にも、グラキリスという種類が生えていました。付近の方は「つるのある雑草」という感じで



ネベンテス・グラキリス



ネベンテス・メリリアーナ(フィリピンミンダナオ島) 協力: 三野 善弘さん

鎌で刈っていて、ワシントン条約で保護されている植物とは思えない扱いでした。東南アジアではペリオケラ(猿の杯)と呼んで、若い袋の消化液を目薬や夜尿症の薬として利用している人もいます。ちなみにウツボカズラは木の根元などに袋をつけるだけでなく、つるは数十メートルもあるような高さまで上ります。そこで光合成ができるように葉をつけて花を咲かせ、やはり袋もつけるのです。木の根元と上部では捕らえる虫の種類が違い、袋が少し異なるのですから、本当に驚くことばかりです。



咲くやこの花館 久山 敦 館長

## 日本のあちこちに 自生しています。

食虫植物は日本にも2科21種ほどの食虫植物が自生しており、北海道から沖縄にかけて広く分布しています。大阪近郊の低山でも、よく日の当たる、養分の少ない湿地で見ることが出来ます。六甲山系や生駒山系をピクニックした際、ノハナシヨウブやサギソウに出会ったら、その周辺を探すと見つかるかもしれません。ネバネバの液体で捕虫するモウセンゴケやイシモチソウ、高い山に自生するムシトリスミレを見つけたら、接着力を確認してみたいかが、自分が虫になったつもりで、葉っぱや紙切れなどをそっとくっつけると離れにくくなっているのがわかるはずですよ。



モウセンゴケ



イシモチソウ

### 観察時の注意事項

まずは山歩きの準備を整え、マナーを守ること。その上で食虫植物の観察時は、むやみに茂みや湿地に踏み込まないこと。害虫や蛇などに警戒すること。また触りすぎたり、傷つけたり、持って帰らないように気をつけて下さい。